

# 中学地理プリント（過去問類似）

## 南アメリカ・オセアニア州

名前

得点

/7

**問1** 面積が約851万平方キロメートルで、大豆や鉄鉱石を主要な輸出品目とするブラジルの産業的背景について述べた文として、適切なものはどれですか。（2021年 和歌山公立入試 類似）

1. 広大な土地を活用した大規模な大豆栽培や、豊富な地下資源を背景とした鉄鉱石の採掘を行い、世界の食料や資源の供給地としての役割を果たしている。
2. アメリカ合衆国との経済的結びつきが非常に強く、北米自由貿易協定（NAFTA）を基盤とした自動車や原油の輸出が産業の大部分を占めている。
3. 熱帯の気候条件のみに依存したコーヒーのモノカルチャー経済から、近年はハイテク産業や石油製品の輸出に完全に特化した経済構造へ移行した。
4. 寒冷な気候に適した小麦の生産や、広大な針葉樹林から得られる木材・パルプの輸出が、人口約2億1千万人の暮らしを支える主要な財源となっている。

**問2** 2020年の統計において、世界の州別の面積と人口の割合を比較すると、陸地面積は全体の約6.5%を占めている一方で、人口の割合は約0.6%と、世界の州の中で最も低くなっている州があります。この州の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 福岡県公立入試 類似）

1. アフリカ州
2. ヨーロッパ州
3. 南アメリカ州
4. オセアニア州

**問3** ある統計資料には、領土面積が約769万km<sup>2</sup>で世界第6位、かつ排他的経済水域が約701万km<sup>2</sup>と領土面積に匹敵する広さを持つ国が示されています。また、この国の地図を確認すると、メルボルンなどの都市が含まれていることがわかります。この国の地理的な特徴として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2017年 富山県公立入試 類似）

1. 一つの大陸を丸ごと領土としており、太平洋やインド洋といった広大な海洋に囲まれている。
2. 北アメリカ大陸の北部に位置し、世界で2番目に広い領土と多くの島々を有している。
3. 南アメリカ大陸に位置し、アマゾン川流域に世界最大の熱帯雨林を抱えている。
4. ユーラシア大陸の北部に位置し、複数の国々と国境を接する世界最大の面積を持つ。

**問4** 日本とオーストラリアの貿易関係について、2022年の統計に基づいた状況を説明したものとして、正しい内容はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 日本への輸入総額は約11兆6千億円に達し、品目別では石炭が45パーセント近くを占めている。
2. 日本への輸入総額は約5千億円にとどまり、羊毛や牛肉などの農畜産物が輸入の過半数となっている。
3. 日本への輸入総額は約500億円まで減少しており、オーストラリアは日本の貿易相手国としての順位を大きく下げている。
4. 日本への輸入総額は約11兆6千億円に達しているが、その約8割は現地で生産された自動車などの工業製品である。

**問5** オーストラリアの南東に位置する太平洋の島国で、標高3,000メートルを超える山々が連なり、一部の地域では氷河も見られる国の名称として正しいものはどれですか。（2025年 山口公立入試 類似）

1. ニュージーランド
2. インドネシア
3. パプアニューギニア
4. フィリピン

**問6** 1973年のオーストラリアにおける輸出相手国の上位5か国は、日本、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、西ドイツでした。しかし、2012年の統計では、中国、日本、韓国、インド、アメリカの順に変化しています。この統計の変化から読み取れる、オーストラリアの貿易の傾向として最も適切なものを次から選びなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. かつて上位であったイギリスなどのヨーロッパ諸国に代わり、中国をはじめとするアジア州の国々への輸出割合が高まった。
2. 1970年代から一貫して、ヨーロッパ州の国々との貿易額がアジア州を上回り続けている。
3. アメリカ合衆国との貿易をすべて停止し、その分をニュージーランドへの輸出に振り替えた。
4. 国内の工業化が進んだ結果、すべての原材料を国内で消費するようになり、輸出相手国が減少した。

**問7** ある都市の気候データを分析したところ、「7月の気温が約10度で最も低く、1月の気温が約20度弱で最も高い。また、各月の降水量は100mm前後で安定している」という特徴が確認されました。この都市の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 青森県公立入試 類似）

1. 南半球に位置する、西岸海洋性気候の都市である
2. 北半球に位置する、地中海性気候の都市である
3. 南半球に位置する、乾燥帯のステップ気候の都市である
4. 北半球に位置する、西岸海洋性気候の都市である

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 広大な土地を活用した大規模な大豆栽培や、豊富な地下資源を背景とした鉄鉱石の採掘を行い、世界の食料や資源の供給地としての役割を果たしている。	ブラジルは、かつてのコーヒー栽培中心の経済から、現在では世界有数の農業・資源大国へと発展しました。特に「カンボ・セラード」と呼ばれる草原地帯の土地改良により大豆の生産が飛躍的に伸びたことや、カラジャスなどの大規模な鉄山から産出される鉄鉱石が、経済を支える重要な柱となっている背景を理解することが重要です。
問2	<b>答え 4</b> オセアニア州	オーストラリア大陸と太平洋の島々からなるこの地域は、広大な陸地面積を有していますが、その多くが乾燥帯の砂漠や厳しい自然環境であるため、居住に適した地域が限られています。その結果、アジア州やアフリカ州など他の州と比較して、世界全体に占める人口の割合が最も低いという特徴があります。
問3	<b>答え 1</b> 一つの大陸を丸ごと領土としており、太平洋やインド洋といった広大な海洋に囲まれている。	領土面積が約769万km <sup>2</sup> で、南部にはメルボルンなどの都市が位置するこの国はオーストラリアです。オーストラリアは世界で唯一、大陸全体を一国で占めている「大陸国家」です。周囲に国境を接する国がなく、太平洋、インド洋、南極海といった広大な海に囲まれているため、領有する排他的経済水域（EEZ）が非常に広くなるという特徴があります。カナダ（北アメリカ）やブラジル（南アメリカ）、ロシア（ユーラシア）の説明は、所在地や地理的条件がオーストラリアとは異なります。
問4	<b>答え 1</b> 日本への輸入総額は約11兆6千億円に達し、品目別では石炭が45パーセント近くを占めている。	2022年におけるオーストラリアから日本への輸入額は11兆6224億円余りに達しました。オーストラリアは石炭や鉄鉱石、液化天然ガス（LNG）といった鉱産資源の主要な供給元であり、特に石炭は輸入全体の約45%を占める極めて重要な品目となっています。
問5	<b>答え 1</b> ニュージーランド	この国は南半球の温帯から冷帯に近い位置にあり、高い標高と降雪条件によって氷河が形成されています。また、かつてイギリスの植民地であった歴史的背景から、英語が公用語の一つとして広く使われているのが特徴です。周辺に砂漠が広がるオーストラリアとは対照的な自然環境を持っています。
問6	<b>答え 1</b> かつて上位であったイギリスなどのヨーロッパ諸国に代わり、中国をはじめとするアジア州の国々への輸出割合が高まった。	オーストラリアはかつてイギリスの植民地であった歴史的背景から、1970年代まではイギリスや西ドイツなどヨーロッパ諸国との結びつきが非常に強い状態にありました。しかし、地理的な近接性やアジア諸国の急速な経済成長を背景に、鉄鉱石や石炭といった資源の輸出先が変化しました。現在では、中国が最大の輸出相手国となっており、日本、韓国、インドといったアジア州の諸国が上位を占めるなど、アジア経済圏との結びつきを強めています。
問7	<b>答え 1</b> 南半球に位置する、西岸海洋性気候の都市である	7月の気温が低く1月の気温が高いという推移は、この都市が南半球に位置することを示しています（北半球であれば7月が高温になります）。また、降水量が年間を通して安定している点は、乾燥帯や夏季乾燥の特徴を持つ地中海性気候とは異なり、西岸海洋性気候の特徴と合致します。